

## 転換期における自由民主党の在り方

### 序 説

党本部主催の研修会に、奮ってご参加いただいた諸君を、まずもって心から歓迎いたしたいと存じます。

4. 演 講
- 論語に「少にして学べば壮にして為すあり、壮にして学べば老いて衰えず、老にして学べば死して朽ちず」という言葉があります。われわれは不断に勉強しなければなりません。とりわけ諸君のように若い時に勉強しなければなりません。何となれば人間というものは、若いときに人間としての骨格が出来上がるものであるといわれており、若いときに勉強して身につけた素材で、自らの人格が形成されるものであるからです。私のように老境に入ると、頭が砂漠のように渴き

かつ散文化して、知識の吸収力や物事に対する感動の度合いが、にわかには衰えを見せるものがあります。勉強は吸収力の強い時にこそ精を出すことが肝心であると存じます。

本日のお話は、「転換期における政治運営の指針」といいかめしい題名になっておりますが、べつだん堅苦しいお話をするつもりはなく、いわば転換期における自由民主党の在り方はどうであるべきかについての考えを申し上げ、諸君のご参考に供したいと存じます。

## 参議院選挙の教訓

### (1) 参議院選挙の結果

まず話の順序として、この夏行なわれた参議院の選挙の結果から、私どもはどついつい教訓を汲みとるべきかについて申し上げます。

この間の参議院選挙における各党派別の当選者を昭和四十九年の参議院選挙のそれと比較すると、自由民主党がプラス三、社会党がマイナス一、公明党は増減なし、民社党はプラス一、共産党はマイナス八ということになり、社会党と民社党は相殺され、共産党の減が新自由クラブ四と社市連一、それに自由民主党プラス三に移っております。これはいわば微調整というもので、政

治の基盤にいわば大きい地殻変動はなかったともいえようかと思えます。

一方、党派別の得票率ですが、前回に較べて、全国区で自由民主党がマイナス七%、社会党がプラス二・二%、公明党はプラス二・一%、民社党がプラス一・二%、共産党がマイナス一%となっており、地方区では、自由民主党がプラス〇・八%、社会党がマイナス〇・一%、公明党がマイナス六・四%、民社党がプラス〇・一%、共産党がマイナス二・〇%となっております。

自由民主党の全国区、公明党の地方区の激減は、何れも両党が公認候補を極力絞るといふ戦術上の方針が大きくひびいているので、その点を除けば党派別の得票率においても、これまた微調整にすぎない結果に終わったことを示しております。

(2) 投票結果の示唆するもの

こつこつ選挙の結果をどのように受け止めるべきかということであるが、まず有権者が、政局のはげしい変化を望まず、現状に大きい不満をもっていない、いわば現状肯定的な意識をもっているものとみるべきではないでしょうか。

さらにこのことは、野党のいう野党連合政権という観念論に冷い反応を示したものと受けとることができません。いつの選挙においても、野党の中には、すぐにも反自民の野党連合勢力をつくり上げて、自由民主党政権にとって代わることをうたい上げる党があったが、今回もその例外で

はありませんでした。野党連合勢力というのは、それを結成する場合に社共と社公民の何れを軸とするのか決めていないし、また決められそうにもない。全野党連合の形でその結成をはかるといふのは、いっそうむずかしい相談でありましょう。ところが選挙になると、この古い歌は、いつの場合でも無造作に歌われてきました。有権者はそのつど、そうした古い歌には一向に耳を藉さなかったし、今回の場合もそうであったように見受けられます。

さらに今回の選挙では、新自由クラブをはじめ、社市連、革自連、女性党なども選挙戦に打って出て、すこぶるカラフルな選挙になったが、有権者はこういういわば素人的な政治活動に対しても冷たい反応を示しました。

### (3) 無党派層の肥大化

ただ一つ、私どもが注意しなければならないことが静かに進行中であります。最近の世論調査によると、支持政党なしとするものが全有権者の二〇%から四〇%に急に上昇しております。ここにいう無党派層の急激な肥大化は、われわれがよほど注意しなければならない傾向であると思えます。

政治学者は、いわゆる無党派層を形成する実勢力は、大きく分けて次の三つがあると言っております。一は主婦であり、二は退職者であり、三は若者であるということです。主婦はこれまで日

夜、家事と育児に追われ、情報を十分摂取し消化する暇がなかったようです。ところが家庭の電化をはじめ、省力的な機械や設備が普及しましたので、主婦はいまや情報を豊富に摂取できるばかりでなく、それを消化する時間を持つようになってきました。その結果、政治についても主体的な意見を持ち、政治に対するその影響力は、その数の優位と相まって益々強いものになってきました。しかし、この主婦の願いや憂いに有効適切に応えている政党は、まだないということがあります。

次は退職者であります。わが国の高年齢社会化の進展とともに、われわれは定年後における第二の人生をどう生き抜くかという切実な大問題に直面することになってまいりました。そしてその退職者の数はこれから二十五年間ぐらいは増すばかりであります。この人たちの願いと憂いに応えることができていく政党も、まだみつからないというのが現状であります。

次に若い青年男女であります。日本の二十代の若者は、優生学的にみてたいへん秀れているといわれ、意識状況もまたおおむね健全であると申されております。NHKは、昭和四十七年と五十一年に、十八歳から二十二歳までの若者の意識調査をしております。これによると、友達とか座禅というようなものが、この四年間に青年にとって魅力を増してきております。保守、革新の何れの政権を望むかについても、革新待望論から保守待望論に向けて見事に逆転を示してきてお

り、若者は全体として保守的傾向を強めているように見受けられます。しかし、それが直ちに自由民主党支持に直結するということではなく、彼らは既成の政党に魅力を感じているように思われぬというのが実情であります。

(4) 残された教訓

参議院選挙が示す結果は、およそそのようなものだと思いますが、それでは有権者は、わが自由民主党に対してどういう反応を示したかということについて申し上げます。結論からいって彼らは、どうも自由民主党がいいから積極的に支持しようというのではない。自由民主党にはその体質からいっても、その組織から見ても、またその政策を吟味してみても、何れも十分合格点を差し上げるわけにはまいらない。しかし、自由民主党が軸になってしっかりしてもらわなければ、政局の安定も政策の推進も、できる相談ではない。だから、自由民主党に圧倒的な支持を与えないことはできないが、自由民主党の議席が過半数を割るような事態は何としても避けなければならぬ。右の手でお灸をすえながら、左の手でこれを鞭撻する。いわば有権者は自由民主党に対して、そういう態度をとってきたように思われます。私が有権者が示した「絶妙な平衡感覚」と申したのはそのことであります。

学者によると、今度の参議院選挙においても、去年の暮れの総選挙においても、勝った政党は

なかつた。ただ、無党派層がジリジリ肥大化する結果をもたらした。しかし同時に有権者の意識は、大体において健全で、政党や政治家が自信過剰や驕慢に流れることを戒めながら、しかも政局の安定をいちじるしく失うようなこともないよう、心にくいまでの絶妙な平衡感覚をもって堅実な判断を下したと申すことができます。そして自由民主党に対しても「自由民主党よ驕るなかれ」、しかし「自由民主党の責任は重いですよ」という警告と激励を同時に与えているように思われるのであります。

### 自由民主党の評価

#### (1) 民主政治における政党の役割

私は、現代は政党政治の時代、政党による民主政治の時代であると思ひます。それは世論が浜の真砂のように細分化されてくると、このままではこれを吸収消化することができるものではありません。その混沌たる中に政党が介在して、これをいくつかのキャンブに整理、区分けをすることになります。各政党は、それぞれ自らの政策を掲げ選挙を通して優劣を争い、過半数を制した政党が政権を担当する仕組みが出来上がります。これを複数政党による議会制民主制といひます。

政党は、もともと有権者の信任を受けなければやっていけませんので、その体質、組織、運営、政策何れの面においても、自ら最善と信ずるところを実現するよう努力いたします。しかし、その実現の方法は政党によってちがいます。私は、これを大きく分けて、社会を変革することをねらいとする革命的な政党と、そうではなくて社会の在り方の根本はそのまま尊重しながら、事態の部分的な改善をねらいとする民主的な政党とがあると思います。前者は自然、独善的、閉鎖的になりがちであり、後者は当然、民主的、開放的な方向に傾斜するようになると思います。前者は党の規則や組織は厳しいもので、党に対して高度の忠誠を求めるようになるものであり、後者はそれに較べて自由で弾力的な規則や組織をもち、党自体もそんなに嫉妬的ではなく、むやみに高度の忠誠を求めるようなことはいたしません。

(2) 自由民主党の特長と弱点

その何れが望ましい姿であるかの判定は、究極においては判定者その人のイデオロギーにかかるといえます。しかし、わが国のこれまでの経験によると、他の先進民主主義国の多くもそうであるように、後者のような性格をもった政党が、民意に投じて多くの同調者の獲得に成功し、政権を担当し、よく時代の要請に対応力を発揮してきたように思います。わが自由民主党は、その中でも最も成功した事例の一つであるといつてもいい過ぎではないと思います。革命的



な政党というものは、組織も立派だし党規も厳しいが、専門店のように限られた人しか同調者として集めることができないようになり勝ちです。

自由民主党は、まず長く政権を担当して、わが国の戦後経営に成功いたしました。そして広い見識と豊富な経験、さらにはバランスのとれた感覚を身につけることができ、各界から多彩な人材を吸収することに成功しました。また自由民主党は、最も広い裾野を持つ政党として、右から左、大企業から零細企業に至るまで、あらゆる地域、あらゆる職域を通して広く国民各層をその同調者の中に吸収し、日常生活の中に巧みに政治を持ちこむことに成功した政党であると思います。

一方、しかしながら、自由民主党の歴史を回顧すると、党規の弛緩、考え方や行動、さらには政策の面におけるマンネリズム、とりわけ数々のスキャンダルの発生に見られるように、多くの過ちや行過ぎを犯してきました。いわば最も人間くさい政党でもあったといえましょう。

だから自由民主党という政党は、近代的な意味で目鼻立ちのよい政党とは決していえないし、クリーンで恰好のよい政党ともいえません。したがってまた国民の間に人気のある政党とはひびき目に見ても思えないのであります。しかし、わが国の戦後経営は、この政党が主役になって遂行され、まれに見る成功を収めたことは事実であります。また、戦後の経営が世界的に大きい試

練に直面し、遂には戦後の経営に落伍する国々が多い中であつて、わが国は経済のバランスとその自立の達成に成功しているが、それはとりもなおさず自由民主党の持つ対応力の強さを示しているものといえましよう。自由民主党はサラブレッドのような恰好よさはもっていないが、コッテ牛のような強靱な実行力も持っている政党であるといえます。自由民主党は、その意味で、わが国がもっている一つの大切な公的財産であるといえるし、このような政党はつくろうとしてもそんなに手軽につくることはできるものではありません。われわれは、自由民主党を大切にしなければなりません。それは自由民主党員のためであるとともに、国民のためでもあると思ひます。

## 自由民主党の改革

### (1) 改革の道標

およそ政党ばかりでなく、人間のつくる組織体は不断に自己改革を進めなければ、その生命力を維持することができないものではありません。自由民主党もその結党以来、絶えずその改革について論究を重ね、改革の実践もしてきました。今年の春からとりかかっている改革も、その一環であります。今回の改革は、去年のロッキード事件による厳しい試練を受けて、この際、これ

だけは何としても改めておかなばならないという切実な願いをこめてのものであります。

その第一の道標は、自由民主党を議員党的な政党から、開かれた国民政党に脱皮させようとするものであります。第二のそれは、自由民主党の組織の周辺に自由国民会議をつくって、自由民主黨員ではないが、自由社会を守るといふ共通の願いをもつ同調者を組織し、自由民主党の党勢の強化をはかろうとするものであります。第三のそれは、党費の値上げと自由国民会議の会員からの会費の受入れによる財政の民主化とその強化をはかることであり、第四のそれは、既存の派閥の解消と広報活動の強化による、党運営の民主化と活力化をはかろうとするものであります。

党を開かれた党にするためにわれわれがまず手を染めたことは、これまで国会議員と一部地方代議員に限られていた総裁選挙の権利を、広く黨員全部と自由国民会議の会員に開放すること、正に画期的な改革であります。

われわれ自由民主党の所属議員の多くは、党の組織よりも自らの後援会組織により強く支えられて政治活動をやっております。後援会員は必ずしも黨員ではありません。また世の中には自由民主党を理解し支持はするけれども、進んで黨員にまでなるつもりはないという人も多いのであります。そうした人々を自由国民会議という名において組織化し、党勢拡張にご協力を願うと同時に一カ年一人一万円の会費の拠出をお願いして自由民主党の財政の民主化と強化の一助にしよ

うとするねらいが、第二の改革であります。国民運動本部においては、究極の目標として全人口の約一%を会員にお願いすることにしております。

自由民主党の財源が、その大半を少数の企業連合体に依存していることは事実であるし、これは必ずしも正常な姿とはいえません。この状態の是正は必ずしも容易ではありませんが、われわれはどんな困難があっても、その是正に真剣に取り組まねばなりません。そこで差し当たり、われわれは党費年間千円を原則として三千円に改めることと、自由国民会議の会員に一人年一万円を会費としてお願いすることにしたのであります。

最後に党運営の改革であります。まず既存派閥の解消であります。人間は派閥的な動物で、三人集まれば二つの派閥をつくるといわれております。そしてそれは、政界だけでなく、実業界、教育界、学界、宗門、スポーツ界、芸能界その他人間活動のあらゆる面に見られる事実であります。またその分派性の強さも、特に政界においてひどいものがあるということでもないようであります。しかし、政界、とりわけわが自由民主党は天下の権を預っている政党であります。それだけに派閥的な思惑や行動が、政治運営の公正を犯すことになりはしないかという国民の懸念に對しては、われわれは謙虚な態度でこれを受け止めなければなりません。そのために既存の派閥は、ともかくも理屈をいわないで解消することにしたのであります。

もっとも派閥は情報の交換、教育や研修を通してそれなりに有益な機能を果たしております。そうした有益な機能は、これからは党が代替して行なうことにし、このように党本部主催の研修会もやっておりますし、党本部に「リパティ・クラブ」という社交倶楽部を設け、党員相互の交歓の場といたしてもいるのであります。

さらに党の広報活動ですが、これがどうもこれまで十分でなかったし、他の党に較べて見劣りがすることも否めません。われわれは政権をもっており、貴重な情報源を豊富多彩にもっているのでありますから、もっともっと質の良い情報を提供できないはずはありません。われわれは、この点にいっその努力と工夫をこらして、国民のニーズに応えてまいりつもりであります。

要するにわれわれは自由民主党を愛し、その改革を通じて、その民主化と活性化を推進し、政権政党の重い責任を十分果たしてまいらねばなりません。諸君のいっそのご精進をお願いして、私のお話を終えたいと思えます。ご清聴を感謝いたします。

(昭五二・八三〇、なおこの演説は以後九月月上旬まで三回にわたり、自民党主催の「夏期全国研修会」で行なわれた 於箱根)